

水辺から 生まれる新潟創生

～水辺と潟を活用した新潟市の取り組み～

新潟市では、潟を始めとした自然環境と市街地の豊かな価値を循環させながら、都市全体が調和ある発展を遂げる「田園型環境都市」を目指して取り組んでいます。ラムサール条約では、都市における湿地の重要性を認識し、地域における湿地の賢明な利用と保全を目的に、湿地と都市が共存する取り組みを進める都市を認証する「湿地自治体認証制度」が創設され、本市は国内初となる申請を行いました。今回は、5つの視点「守る」・「継ぐ」・「生み出す」・「伝える」・「高める」をもとに「潟」を次世代につなげていく方法について考えます。

「佐潟のハクチョウ」提供：佐潟水鳥・湿地センター

日時 2020年12月12日(土) 14:00～16:00(受付13:00～)

会場 新潟市万代市民会館多目的ホール
(新潟市中央区東万代町9番1号)
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込 定員／先着100名 入場無料
新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へお申込みください。
※申込開始11月13日(金) 受付時間8:00～21:00 年中無休



◎新型コロナウイルス対策にかかる留意事項については裏面をご確認ください。

プログラム

第1部 基調講演
「湿地自治体認証制度と日本国内での展開について(仮)」
中尾文子氏(環境省自然環境局野生生物課長)

第2部 事例報告
「秋田県八郎湖流域における環境学習と、モグリウムの取り組み」
鎌田洋平氏(特定非営利活動法人はちろうプロジェクト事務局長)

第3部 パネルディスカッション
「次世代に向けて湿地の保全と活用を考える」
中尾文子氏 × 鎌田洋平氏 × 澤口晋一氏 × 志賀隆氏 × 松浦佟太郎氏



【第1部】 基調講演

講師プロフィール



中尾 文子氏 環境省自然環境局野生生物課長

東京大学農学部卒、ゲルフ大学大学院造園学修士。環境庁（当時）中部山岳国立公園管理事務所、国立公園、野生生物の保護管理、自然再生、エコツーリズム等の自然保護行政に携わった他、生物多様性条約の資金メカニズムである地球環境ファシリティにおいて発展途上国支援、国連大学において SATOYAMA イニシアチブの発足等を行う。

【第2部】 事例報告

報告者プロフィール



鎌田 洋平氏 特定非営利活動法人はちろうプロジェクト 事務局長

秋田県八郎湖流域において、小学校を中心とした環境学習、住民団体との連携づくり、大学生・高校生と連携した新規環境学習プログラムの開発などの事業を通して、未来の八郎湖再生を担う人材の育成を目指した取り組みを実践中。今年度から「八郎湖モグリウム」事業にも取り組んでいる。

【第3部】 パネルディスカッション

出演者プロフィール



澤口 晋一氏 新潟国際情報大学教授

博士（地理学）。専門は自然地理学・地形学。高緯度極地や高山をずっとフィールドにしてきたが、数年ほど前から越後平野を相手にするようになり、主に新潟砂丘の地形や潟の成因について調べている。新潟市里潟研究ネットワーク会議座長。



志賀 隆氏 新潟大学准教授

博士（理学）。専門は植物分類学・保全生物学。水辺の植物の多様性や生き様を調べる一方で、日本の豊かな水辺の植生を残すための研究を進める。新潟市里潟研究ネットワーク会議会員。



松浦 柁太郎氏 株式会社U・STYLE ディレクター

鳥屋野潟を中心とした新潟の地域ブランディングに取り組む。「潟ボーイ's」シリーズの企画制作、潟マルシェなど、デザインを通じた地域の魅力創出に向け、様々な場と機会での取り組みを進める。

<新型コロナウイルス対策にかかる留意事項>

- ・ 新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、当日、受付時に検温を行います。
- ・ 発熱症状（体温 37.5 度以上）が確認された場合には、入場をご遠慮いただくことがございますのであらかじめご了承ください。
- ・ ご入場の際は、エチケットマスクの着用及び入口付近に設置するアルコール消毒液による手指消毒にご協力をお願いします。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて本シンポジウムは中止となる場合があります。

